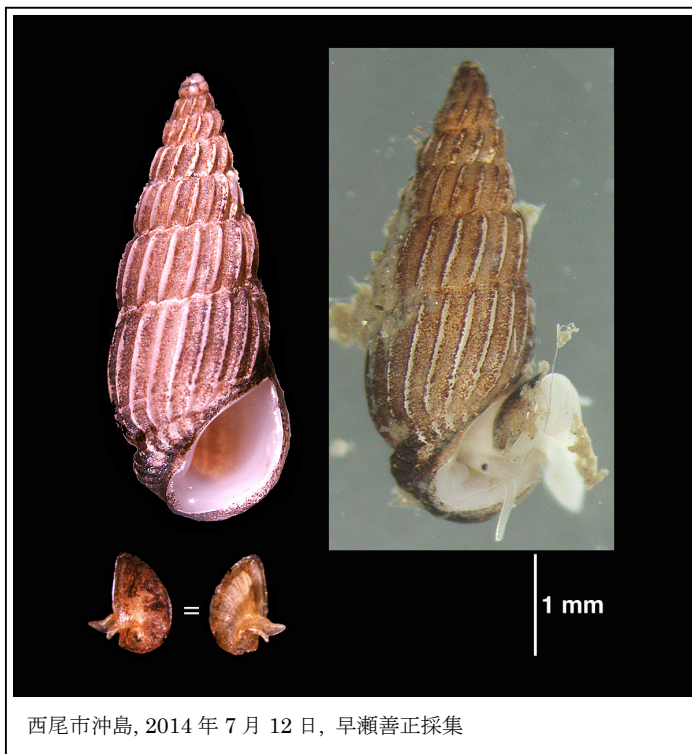


スジウネリチョウジガイ *Rissoina costulata* Dunker

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は、上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島の潮間帯や同島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻は少ないながらも採集されたが、長い期間生貝は採集されなかった (木村, 1995, 1996)。近年、三河湾の島嶼域の潮通しの良い砂礫干潟の埋もれ石下面より生息が確認できるようになったが、生息域の面積は非常に小さく、佐久島 (早瀬・木村, 2020) 以外では個体数も少ない。生貝が採集されるようになったので、前回 (CR) よりランクダウンすべき種と評価された。



西尾市沖島, 2014 年 7 月 12 日, 早瀬善正採集

【形態】

殻長約 5 mm の微小で、やや細い塔型の殻を持つ。殻表の縦肋は緩曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では生貝が確認できない期間が長く続いたが、近年、沖島 (早瀬・他, 2015)、梶島 (早瀬・他, 2016)、佐久島 (早瀬・木村, 2020)、日間賀島 (早瀬・他, 2019) で生息が確認されている。

【世界及び国内の分布】

日本と朝鮮半島で記録されていて、国内では房総・男鹿半島から九州、南西諸島、小笠原諸島まで分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では生貝を採集できるようになったが、生息面積は小さく、個体数は多くないので、依然として危機的な生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

福田 宏, 2012. スジウネリチョウジガイ, p. 35. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

早瀬善正・木村昭一・大貫貴清, 2015. 沖島 (三河湾) の転石地潮間帯の貝類相. かきつばた, (40): 23-30.

早瀬善正・木村昭一・河辺訓受・川瀬基弘・林 誠司・西 浩孝・守谷茂樹・石井健一郎・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2016. 梶島 (三河湾) の潮間帯の貝類相. かきつばた, (41): 27-39.

早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島 (三河湾) の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.

早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. かきつばた, (44): 1-15.

木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)